



平成30年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月3日

上場会社名 株式会社ロックオン 上場取引所 東
 コード番号 3690 URL https://www.lockon.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 岩田 進
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 赤澤 洋樹 (TEL) 03(3289)5051
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月6日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第3四半期の連結業績(平成29年10月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第3四半期	1,327	4.8	△82	—	△96	—	△69	—
29年9月期第3四半期	1,266	10.2	116	△28.2	130	△19.9	90	△13.0

(注) 包括利益 30年9月期第3四半期 △70百万円(—%) 29年9月期第3四半期 89百万円(△14.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第3四半期	△10.99	—
29年9月期第3四半期	14.31	14.28

(注) 平成30年9月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年9月期第3四半期	2,202	1,193	54.2
29年9月期	1,439	1,234	85.8

(参考) 自己資本 30年9月期第3四半期 1,193百万円 29年9月期 1,234百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
30年9月期	—	0.00	—	—	—
30年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の連結業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	1,800	4.7	△150	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

詳細については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年9月期3Q	6,352,143株	29年9月期	6,311,694株
② 期末自己株式数	30年9月期3Q	179株	29年9月期	45株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年9月期3Q	6,334,076株	29年9月期3Q	6,311,356株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループが事業を展開している国内のインターネット広告市場につきましては、スマートフォン広告、動画広告の継続的拡大に加え、アドテクノロジーの進化を背景にした運用型広告がインターネット広告市場全体を牽引、平成29年のインターネット広告費は前年比115.2%の1兆5,094億円（総電通「2017年日本の広告費」）と4年連続で二桁増と引き続き高い成長を示すなど、広告市場のインターネットシフトのトレンドが続いております。

一方、当社グループのもう一つの対面市場であるEC市場につきましては、スマートフォンやタブレット端末の普及・進化に伴い、企業のECビジネス展開が加速しており、平成29年国内BtoC-EC市場は、前年比109.1%の16.5兆円まで拡大しています。また、全ての商取引に対する電子商取引の割合であるEC化率は、BtoC-ECで5.8%（経済産業省「平成29年我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（電子商取引に関する市場調査）報告書」）であり、伸びしろが大いにある分野であります。

このような良好な事業環境の下、当社グループは、企業と顧客とのコミュニケーションを自動化・効率化する「マーケティングロボット事業」を自社事業領域と定め、引き続きその拡大に向け、人員強化を積極的に進めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,327,755千円（前年同期比4.8%増）、営業損失は82,270千円（前年同期は116,217千円の営業利益）、経常損失は96,700千円（前年同期は130,219千円の経常利益）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は69,639千円（前年同期は90,299千円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① マーケティングプラットフォーム事業

当事業はマーケティングプラットフォーム「AD EBiS」を提供する事業であります。「AD EBiS」は広告効果測定システムを基盤としたマーケティング統合環境を提供するサブスクリプション型のサービスであり、2004年にリリースして以来9,000件以上の導入件数を誇っています。当事業では、データの蓄積を行う「センサー系」機能、AIの技術を用いて分析を行う「知能制御系」機能、分析結果を自動的に活用する「駆動系」機能、これら3階層の機能を備えるサービスを「マーケティングロボット」と定義し、人口減少・少子高齢化時代における企業のマーケティング活動に不可欠なサービスの開発を目指しております。

当第3四半期連結累計期間においては、AI（人工知能）を活用することにより、国内の広告効果測定ツールとしては初めてデバイス・アプリ・ブラウザ間を横断してユーザー行動を可視化するクロスデバイス機能を開発いたしました。当該クロスデバイス技術関連発明については特許出願済みであります。また、ウェブ上での行動履歴にユーザー属性をつなげて分析を可能にするという「AD EBiS」のカスタマージャーニー機能について、平成30年2月9日に特許を取得しております。その他、他社ツールとの連携機能開発も引き続き精力的に進めており、サービスの付加価値を高めることで売上拡大に取り組んでまいりました。

なお、前期まで商流プラットフォーム事業に集計しておりましたDMP事業については、マーケティングロボットの先駆ビジネスモデルとしての性質が強くなったため、当期からマーケティングプラットフォーム事業に含めて集計しております。当第3四半期連結累計期間におけるDMP事業の売上高は64,596千円であり、前年同期に商流プラットフォーム事業に集計していた同事業の売上高は79,492千円であります。

その結果、売上高は1,116,414千円（前年同期比21.8%増）と増収になりましたが、サブスクリプション型ビジネスの基盤拡大のために開発や営業部門の人員採用を積極的に進めたことや、新規顧客獲得のための広告販促活動に積極的に取り組んだことにより、営業損失は105,565千円（前年同期は138,067千円の営業利益）となりました。

※DMP（Data Management Platform）事業とは、「AD EBiS」のデータに、企業が持つ固有の顧客情報等を統合したデータ環境を構築・提供するサービス。

② 商流プラットフォーム事業

当事業は、EC構築のためのオープンプラットフォーム「EC-CUBE」を提供する事業であります。「EC-CUBE」はフリーミアムモデルのオープンソース・パッケージとして提供しており、EC事業者のインフラ整備や売上向上に貢献する一方、「EC-CUBE」と連携する各種サービス（決済代行等）の提供事業者からマージン収入を得る

というエコシステムを構築しております。

当第3四半期連結累計期間においては、ECサイトのセキュリティ強化するためクレジットカード不正検知プラグインの提供を開始したほか、引き続き新規EC事業者の獲得に向けたキャンペーン活動を積極展開してまいりました。また、Amazonアカウントで決済できる「Amazon Payプラグイン」をEC-CUBEに導入いたしました。これにより、個人情報等を入力することなく決済が完了することから、購入率・会員登録率の向上を見込んでおります。

なお、前年同期に商流プラットフォーム事業に含まれていたEC受託開発事業（SOLUTION事業）については、平成29年5月9日に公表したお知らせのとおり、関連会社である株式会社ラジカルオペティ等に事業移管を行っております。前年同期に商流プラットフォーム事業に集計していた同事業の売上高は108,924千円であります。

その結果、事業移管したSOLUTION事業分の減収により売上高は211,340千円（前年同期比39.7%減）となりましたが、収益構造が改善したことにより営業利益は23,295千円（前年同期は21,850千円の営業損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ762,852千円増加し、2,202,041千円となりました。主な要因は、短期及び長期借入等により現預金が595,881千円増加したこと、自社開発の進捗によりソフトウェアが53,580千円増加したこと、譲渡制限付き株式の付与等により前払費用が26,965千円、長期前払費用が32,720千円増加したこと等によるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末の負債については、前連結会計年度末と比べ804,091千円増加し、1,008,699千円となりました。主な要因は、今後の事業拡大のための資金調達により短期借入金が200,000千円増加、一年以内返済予定長期借入金が199,852千円、長期借入金が391,816千円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産については、前連結会計年度末と比べ41,238千円減少し、1,193,342千円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失69,639千円の計上及び期末配当金の支払31,558千円によるものですが、譲渡制限付き株式の付与に伴う新株発行による資本金の増加30,235千円及び資本準備金の増加30,235千円により一部相殺されております。この結果、自己資本比率は54.2%（前連結会計年度末は85.8%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、平成30年5月8日に公表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	680,841	1,276,722
売掛金	271,957	257,541
仕掛品	297	—
前払費用	34,326	61,291
繰延税金資産	2,757	5,654
その他	9,142	27,809
貸倒引当金	△120	△90
流動資産合計	999,203	1,628,930
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	92,663	92,663
減価償却累計額	△39,515	△55,893
建物及び構築物(純額)	53,147	36,770
工具、器具及び備品	181,196	199,954
減価償却累計額	△143,984	△153,366
工具、器具及び備品(純額)	37,212	46,587
有形固定資産合計	90,359	83,358
無形固定資産		
ソフトウェア	171,762	225,342
ソフトウェア仮勘定	36,343	77,167
その他	46	46
無形固定資産合計	208,152	302,556
投資その他の資産		
投資有価証券	36,459	24,360
長期前払費用	2,390	35,110
繰延税金資産	10,156	35,510
差入保証金	91,965	91,787
保険積立金	500	426
その他	9,995	10,038
貸倒引当金	△9,995	△10,038
投資その他の資産合計	141,472	187,196
固定資産合計	439,985	573,111
資産合計	1,439,188	2,202,041

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	22,984	14,093
短期借入金	—	200,000
1年内返済予定の長期借入金	—	199,852
未払金	101,223	103,777
未払法人税等	—	7,912
預り金	35,600	41,831
賞与引当金	4,670	11,064
株主優待引当金	1,919	—
その他	809	604
流動負債合計	167,207	579,135
固定負債		
長期借入金	—	391,816
賞与引当金	—	347
資産除去債務	37,400	37,400
固定負債合計	37,400	429,563
負債合計	204,607	1,008,699
純資産の部		
株主資本		
資本金	276,482	306,718
資本剰余金	266,460	296,695
利益剰余金	692,281	591,083
自己株式	△99	△99
株主資本合計	1,235,124	1,194,397
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△543	△1,055
その他の包括利益累計額合計	△543	△1,055
純資産合計	1,234,581	1,193,342
負債純資産合計	1,439,188	2,202,041

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
売上高	1,266,767	1,327,755
売上原価	419,105	439,667
売上総利益	847,662	888,088
販売費及び一般管理費	731,445	970,358
営業利益又は営業損失(△)	116,217	△82,270
営業外収益		
為替差益	61	—
保険解約返戻金	17,592	3
講演料等収入	606	250
その他	149	197
営業外収益合計	18,410	451
営業外費用		
支払利息	—	593
為替差損	—	1,994
持分法による投資損失	4,378	11,002
その他	30	1,291
営業外費用合計	4,408	14,882
経常利益又は経常損失(△)	130,219	△96,700
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	130,219	△96,700
法人税、住民税及び事業税	43,000	1,190
法人税等調整額	△3,080	△28,251
法人税等合計	39,919	△27,060
四半期純利益又は四半期純損失(△)	90,299	△69,639
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	90,299	△69,639

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	90,299	△69,639
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△534	△512
その他の包括利益合計	△534	△512
四半期包括利益	89,764	△70,151
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	89,764	△70,151
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

第3四半期連結累計期間において、譲渡制限付株式の発行により資本金及び資本準備金がそれぞれ30,235千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が306,718千円、資本剰余金が296,695千円となっております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年10月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	マーケティング プラットフォーム フォーム	商流プラットフォーム フォーム	計		
売上高					
外部顧客への売上高	916,294	350,473	1,266,767	—	1,266,767
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	916,294	350,473	1,266,767	—	1,266,767
セグメント利益又は損失(△)	138,067	△21,850	116,217	—	116,217

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年10月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	マーケティング プラットフォーム フォーム	商流プラットフォーム フォーム	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,116,414	211,340	1,327,755	—	1,327,755
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,116,414	211,340	1,327,755	—	1,327,755
セグメント利益又は損失(△)	△105,565	23,295	△82,270	—	△82,270

(注) 1. セグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 前期まで商流プラットフォーム事業に集計しておりましたDMP事業については、マーケティングロボットの先駆ビジネスモデルとしての性質が強くなったため、当期からマーケティングプラットフォーム事業に含めて集計しております。当第3四半期連結累計期間におけるDMP事業の売上高は64,596千円であり、前年同期に商流プラットフォーム事業に集計していた同事業の売上高は79,492千円であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。